

## 平成 27 年土木学会論文賞受賞

法人正会員 NPO 法人道普請人 常務理事 福林 良典



土木学会論文集 F5 (土木技術者実践) に掲載された「土のう工法の普及活動を通じた未舗装道路整備の BOP ビジネス化」(著者: 福林良典、本庄由紀、木村 亮) が、平成 27 年土木学会論文賞を受賞した。同賞への推薦をいただいた、土木学会論文集編集委員会 F5 分冊編集小委員会委員長、東京工業大学大学院理工学研究科の花岡伸也先生と同委員会の皆様には厚くお礼申し上げます。同賞の受賞式が行われる 2016 年 6 月に発行される CNCP 通信への投稿ということで、受賞論文について触れてみたい。

### 6 年間のケニアでの活動成果

本論文は 2008 年から 2014 年にかけての NPO 法人道普請人のケニアでの活動とその成果をまとめたものである。開発途上国で行政による整備が行届かない未舗装生活道路の通行性を改善し、沿線に住む人々の生計向上のために何ができるか? この問題に対する取組として、土木技術者として具体的なアプローチを設定し、現場で試行錯誤しながら実践し、提案する手法(土のう工法)での未舗装道路整備が若者雇用促進政策で活用されるというソーシャルビジネスモデルを構築した。

BOP とは Base of the Pyramid の略で、貧困層にある人々のことを指す。BOP ビジネスでは、BOP 層を国際企業の顧客とするビジネス形態もあれば、自らがビジネスを展開する主体となる形態もある。ニートで地域社会の問題とされていた若者集団が土のうによる未舗装道路整備手法の研修を受けたことをきっかけに、地域の道路問題の解決に寄与しそして施工業者として行政や民間から道路工事を請負うようになった。現地調達材料と人力による土のうによる道路整備手法の有効性が認知されケニア行政が道路整備 5 ヶ年計画で土のう工法を推奨したことにより、資本を持たない若者グループの施工業者としての起業を可能にした。

### 受賞に際しアピールしたい点

1. 土木技術者としての現場主義と発想の転換: 開発途上国の生活道路整備のために、先進国の道路設計手法や整備仕様に固執するのではなく、現地調達材料と人力でも実施可能な手法として土のうによる路盤構築手法の住民への技術移転と定着化を検討した。
2. 社会起業家としての現場での持続的で円滑な活動: ケニアで NGO 登録をし、現地スタッフの雇用と活動成果を得るためにその能力強化を進めた。日本人が駐在しそのマネジメント下での活動実践のための資金を確保した。
3. 実践専門家集団として、多様なステークホルダーの巻き込み(ボトムアップとトップダウンの両アプローチが可能): 住民(若者)グループ、地域社会、地方行政官、ケニア中央政府道路行政官、在ケニア日本大使館(日本政府外務省)、ILO(国際労働機関)の信頼を得て、連携した事業活動を実践した。
4. 持続可能な開発目標の達成に資する研究成果: ケニアでの事例であるが、他アフリカ諸国や開発途上国における同様の問題に対し、本論文でまとめた成果が活かされる可能性がある。2015 年に国際社会が定めた「持続可能な開発目標」の達成に資する研究成果と言える。
5. 土木分野における社会起業活動成果の論文化: 活動成果を論文としてまとめることができ、土木学会論文集 F5 (土木技術者実践) に採択された。

### 今後の抱負

論文賞をいただくことは自信と励みになっている。この活動成果は論文著者のみならず、上記でも触れたが多くの協力を得て達成できた。その方々にこのような評価を得たことを報告するとともに、心の奥底から感謝したい。世界の貧困削減と繁栄の共有に向け、私たちの団体目的である「自分達の道は自分達で直す」意識を広める活動を、初心を忘れずこれまでの経験を活かしながら取り組んでいく。論文作業もスピード感を持ってできるよう、自分を律していきたい。